

こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.55



心豊かな社会の主演に

公民館講座の休憩時間の世間話の中のことです。Aさんが次のようなことを話し始めました。

「ああ、悩んじゃうわ。30歳になる私の子どもにやっとな結婚したい人ができたらいいのよ。『どんな人かな』と思って、子どもに『その相手のことを調べてみた?』と話したら、『今どきそんなことをするなんておかしい』と言われてしまったの。」

「そんなこと、私もわかっているのよ。でも、調べてみないとどんな人か分からないでしょう。もし、○○○だったなら、私は良くても…親戚とかが何て言うか分からないし…。子どもは、相手が○○○と分かっても、きつと『結婚する』って言い切ると思うの。子どもの話を聞いてみると、相手はとっても素直ないい人みたいで…。やっぱり相手のことを調べてみた方がいいかなあ。」

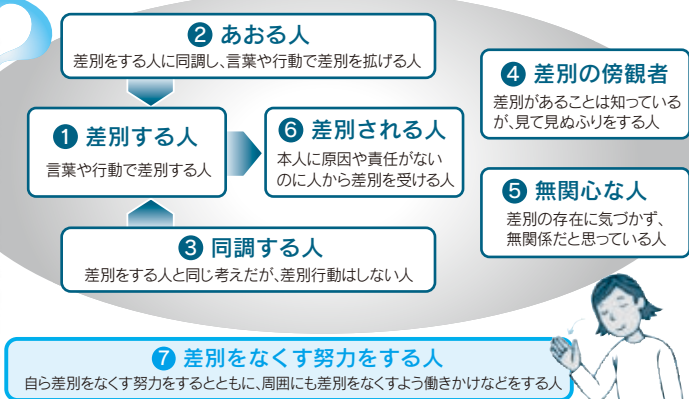
※○○○には「体に障がいのある人」や「外国人」など様々な言葉が入ります。

「あなたが、この場面に居合わせたとしたら、次のどの立場に立ちますか。」

「差別について考えると、私たちは、必ず7つの立場のどこかにいます。」

「Aさんは、もちろん①の立場です。また、②、③の人たちは差別に直接かわらなくても、差別しているのと同じで、人の心を踏みにじっており、人間として許せない立場に立っていることは言うまでもありません。」

あなたは、どの立場ですか



「しかし、考えなければならぬのは、④、⑤の人たちです。なぜなら、これらの人は差別に黙っていることで、差別を容認し、差別に加担しているといえるからです。」



「また、④、⑤の人は、自分の生活が差別に直接関係しないうちは傍観者・無関心の立場ですが、直接自分の問題になると、容易に差別する側になり得るところがあるからです。」

「この場面で問題となるのは、子どもの結婚相手を『素直な』」

☆第4回国東市隣保館まつり「こころの川柳」応募作品☆
 ☆どよも心やさし母のひび ☆国東町 平永 イツヨ
 ☆書き書きい言えは言うほど汗が出る ☆武蔵町 本田 真唯

お知らせ
 ☆人権ビデオ上映会「隣保館」
 テーマ 「コミュニケーション」
 トレーニング
 12月21日(火)午後2時～4時
 ☆同和問題学習会
 12月16日(木)午後3時～5時
 問い合わせ 国東市隣保館
 ☎0978-68-1172